

京都工業会ニュース

基本理念 -21世紀を担うモノづくり集団-
京都からモノづくりイノベーション

2016 No.388

2016キューバ・カナダ産業視察団 報告 2~6

～カリブ諸国最大の市場と北米の重要拠点を訪ねる～

昨年のアメリカ合衆国との国交回復後、経済発展と国際交流に関する心が高まり、開発特区のプロジェクトが進みつつあるカリブ諸国最大の市場キューバと、カナダ最大の都市で経済の中心であるトロントに産業視察団を派遣しました。

- ・正副団長所感
- ・団員名簿
- ・団員コメント
- ・視察日程
- ・視察報告



▲在キューバ渡邊日本大使とともに
(前列左から2人目：渡邊大使)



会員企業トップにインタビュー（第6回） 7

第6回目は、株洛北義肢（北区）に坂本明信社長を訪問。

「必要とされる人に 必要とされるものを 必要なときに」というシンプルかつ不变の経営哲学の下、人材育成に注力しつつ、時代にあわせて成長を続けておられる同社の経営についてお話を伺いました。

◆坂本明信社長

事業活動報告

白鷺クラブ 8

第471回例会

本年5月に弊会副会长に就任された日新電機(株)・小畑英明社長を迎えて、経営の要諦についてお話を伺いました。

長野県産業視察（第473回例会）

精密機械や情報関連産業の有数の集積地である長野県諒訪地域を訪問しました。

京都工業クラブ 8

- ・「イギリスのEU離脱の影響と今後の展開」
- ・「ソフトバンク・ペッパーが拓く未来
～その活用と展開について～」

業務革新研究会 9

電子システム研究科・メカトロニクス研究科一泊研修 9

購買管理特別講演会 9

予告 10

創立60周年記念祝賀会
2017年 新春交歓会
京都産学公連携フォーラム2017

叙勲の栄 11

新入会員紹介 11

訃報 11

女性活躍推進企業事例紹介（第2回） 12

モノづくり企業で活躍する女性管理職と候補者をメンバーとする京都工業会「女性の会」会員企業の中から、先進的な取り組みを実践しておられる企業をご紹介。2回目の今回は、(株)イシダの取り組みをご紹介いただきます。

キューバ・カナダ視察レポート

2016 キューバ・カナダ産業視察団 団長
(公社)京都工業会 会長 依田 誠



ハバナ空港に到着しホテルにチェックインしたのはもう深夜。シャワーを浴び、髪を乾かし、さっさと寝なきゃ、と壁設置型のドライヤーを使おうとしたら動かない。しまった！ガイドブックにもハバナのホテルの設備は老朽化していて不備だらけ、と書いてあったにもかかわらず旅行用のドライヤーを鞄に詰めるのを忘れた。フロントに電話してドライヤーが壊れている、と伝えると「調べて折り返し電話する」というそつけない返事。その後5分経ち10分経っても返事はこない。こりゃ望み薄だな、明日もう一度フロントに直接交渉するしかないなと、濡れた髪のままベッドに入ろうしたらドアにノックの音。ドアを開けるとメンテナンスサービスの係りの人（女性！）が替りのドライヤーを持ってきてくれた。なーんだアジアのどっかの国と違ってサービスのなんたるかを知っている、とまず感激する。改めて部屋をよく見回すとバスルームのドアの木部はシロアリに喰われたようにボロボロ。いろいろな備品も老朽化し古びていて古道具屋にも引き取りを拒否されそうなものばかり。その昔はさぞかし立派なホテルだったんだろうが耐用年数をはるかに超過した備品や調度ばかりではいかんともし難いのだろう。その後もガタガタのエレベーターの中に閉じ込められた時も緊急用電話にはちゃんと応対してくれた。「閉じ込められた！」というと、「ちょっと待て」と言って電話は切られてしまったけど、その後2~3分で動き出したからきっと何かしてくれたんだろう。

独断と偏見による結論：キューバ人はいい奴だ。物は老朽化しているけど心は新品。ラテン系では考えられないほど勤勉な人たちなのだ！

今回の海外視察先を決める際のキーワードは「安全」「新規」「旬」でした。東南アジアに新規性はないし、欧洲/米国は安全面に不安がある。北欧あるいは豪州なども候補にあがりましたが、今が「旬」という点でキューバに決まり、旅程の乗継地であるカナダ、トロントを組み合わせることになりました。

現在のキューバの主要産業はサービス業（観光・医療など）が中心で工業はほとんど未発達。しかし米国との国交回復により対キューバ経済制裁が徐々に解除されて行くであろう将来を見れば、工業を含む様々な産業が発展して行くことへの期待が膨らみます。米国との関係の良化の影響か否かはわかりませんがハバナの街を行く人々は活気に満ちているように感じられました。

キューバ全体の動きは訪問初日のハバナ在日本大使館でお会いした渡邊大使の懇切丁寧な説明でよく理解できました。特に目からうろこの情報は、

- ①教育レベルが高い（教育費が無償、その結果高い識字率）
- ②開発途上国のリーダー格（他の開発途上国に医師、教師を派遣して援助している。また、国際会議の場などで多弁）
- ③鉱物資源が豊富（ニッケル/埋蔵量世界3位、コバルト/同世界5位）
- ④自動車購入時の賦課金が800%（小型車でも1000万円近くする。それゆえ古いアメ車を修理しながらまだに使用している）
- ⑤二重通貨制度（外国人レート1ドル=1兌換ペソ 国民レート1ドル=24人民ペソ こんなに酷い二重レートは聞いたことない）
- ⑥良好な治安

キューバは社会主義を堅持しながら経済発展を遂げようとしています。経済が発展すれば必然的に富の再配分の問題、格差、汚職、公害などの問題が出現します。キューバはいろいろな国の経済社会モデルを研究し自国に最適な政策を選択あるいは組み合わせようとしているそうですが果たしてうまく行くのでしょうか。反面教師には事欠きませんが、現代社会に模範とするモデルが存在するとは思えないからです。とはいっても教育レベルの高さは大きな武器です。貧困にあえぐ多くの新興国が人材不足ゆえの政治経済の混乱からなかなか抜け出せない状況にあるのとは少し違った発展が期待できそうです。優秀な人材がその能力を発揮する機会が与えられない現状が、経済の発展と共に解消して行くことになるからです。（因みに現在キューバでは政府で規定されている医者の報酬より観光客との接点が多く兌換ペソでチップをもらえるタクシー運転手の方が多く医師免許を持つ人がタクシー運転手をしているケースもあると聞きました）

懸念点のひとつはポスト・カストロでしょう。フィデル／ラウル・カストロ兄弟に続く優秀なそしてカリスマ性のある次期国家評議会議長があらわれるか否かに将来のキューバの命運がかかっているとも言えそうです。

閑話休題。今年4月に私的な旅行でブータンを訪れました。国民総幸福量（GNH）と魅力的な国王夫妻の訪日で一躍有名になった国です。彼らは経済成長による物質的な繁栄だけでは人々は幸福になれない、幸福の追求がより重要だと主張しています。最近の先進国の政治経済の混乱と迷走をみると彼らの主張が正しいような気がします。深い信仰のもとブータン人はみな幸せに暮らしているような印象を持ちました。

キューバとブータン、この二国が今後どのような発展を遂げて行くのか目が離せません。

結びに今回の視察を無事に終えられたこと並びにご参加いただいた会員の皆様に感謝申し上げます。

キューバ・カナダ産業視察団に参加して

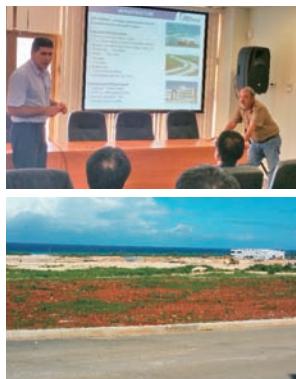
2016 キューバ・カナダ産業視察団・副団長
(公社) 京都工業会・副会長 片岡 宏二



羽田からトロント経由でハバナに到着したが、少し蒸し暑く感じた。私のご報告はキューバ・ハバナのマリエル開発特区視察と、カナダ・トロントのスリーマン社とさせて頂きます。

私のキューバでの印象は、永年経済封鎖を受けていたにもかかわらず、国民はおおらかで識字率もほぼ100%、伸び伸びと生活しているように感じた。また治安も良く今後観光産業が大きく成長すると共に、工業及び製造業の発展が期待出来るのではないかと感じた。

第2日の10月17日(月)は、9時15分にホテルを出発し、在キューバ日本大使館に特命全権大使の渡邊優様を表敬訪問し、キューバの事情についてご説明を頂いた。午後からはマリエル開発特区を訪れ、先ず関係職員からマリエル開発特区の計画と誘致状況について説明を受けた後、バスで特区を視察した。その時感じたことは、1980年代初めに中国大連を訪問し、市役所で大連市長から工業団地計画の説明を受けた後、工業団地の予定地を視察した時のことである。近くには港があるが、予定地は荒涼地帯でこれから整地をする所であった。その点マリエル開発特区はすでに整地も出来ていて、一部企業の進出も見られた。しかしキューバの経済規模から考えた場合、どれだけの企業誘致が出来るのであろうか。特に外国企業の誘致が重



ハバナ・マリエル開発特区
港の近くに整地が進んでいる

要と考えられる。中国の大連市は、日本はじめ外国企業の誘致に成功し、大躍進を遂げたので、同じ港湾都市としてマリエル開発特区の成功を祈念したい。

4日目の10月19日(水)はトロントのスリーマン(Sleeman)社を訪問した。スリーマン社は2003年からサッポロビールの受託製造を行い、2006年にはサッポロビールが買収し、現在サッポロビールの連結子会社である。私が感銘を受けたのは、市場全体が低迷する中、2015年から2016年の間に売上1.5倍・利益2.7倍、シェアは4.9%から7.4%と成長されたことである。私が花澤社長様に、何故そのように成長出来たのかを質問したところ、「スリーマン社独自のブランド戦略を取ったからである」と回答された。なるほど、と頷けた反面、思い切ったブランド戦略であったと思う。また今回の訪問に対し、サッポロホールディングス株式会社・上條社長様のお口添えで、お料理をご用意のうえ試飲をさせて頂いた。心温まるおもてなしに感謝と御礼を申し上げます。

今回の産業視察では、依田団長のもと最後まで恙なく、皆様と親しく有意義な視察が出来たことに心より御礼を申し上げます。



ハバナ市内
フリーマーケット



SLEEMAN社ビール工場



ナイアガラフォールズにて

キューバ・カナダ視察報告



過去、この京都工業会の海外視察には何度か参加させて頂き、その度にそれぞれの地域、国々の見聞を広めると同時に、ご同行頂いた方々との交流を深めることができたことは私にとって大きな収穫でした。

一方で、過去に訪れた国々に関してはほとんどの場合、訪問前から既にある程度の知識・情報を持ち合わせており、現実に様々な国々の訪問を通じて特に大きなギャップを感じることは少なかつたように感じます。

しかしながら今回のキューバという国に関しては、過去の訪問国と比べるかに情報量が少なく、一体どんな国なんだろう……という期待感がありました。

訪問地ハバナに到着してまず感じたことは、とにかく遠い国……というのが第一印象。

大阪からも東京からも直行便ではなく、京都駅から空港バス～伊丹空港～羽田～トロント～ハバナと乗り継ぎ、自宅から目的地までのドアtoドアで24時間以上を要するところが「もう一度訪れたい！」という気持ちを阻害する最大の要因かも……。

2016 キューバ・カナダ産業視察団・副団長
(公社) 京都工業会・副会長 山岡 祥二

ボヤキはさておき、この国〈行ったのは首都ハバナだけだが…?〉を訪れてまず感じたのは、建物自体はかなり老朽化した古い建物が圧倒的に多いが、ゴミもなく街並みがきれい。他国の都市に行くと表立った所はきれいに整備されているが少し裏道に入ったり、町はずれに行くと大違い……という経験は何度もあるが。

更には、電力事情の影響かと思われるが夜間は全般的に薄暗く、人影のまばらではあるが治安は非常によく、夜間に一人歩きしてもほぼ危険性はないという。

また、キューバ名産品である葉巻煙草の工場を視察したが、男女様々にTシャツ、半パン、サンダル姿、そして咥えたばこでの自由気ままな作業風景には少々驚いたが、葉巻を巻き上げる鮮やかな熟練の技と手際の良さには感心させられた。

米国との国交を回復し「カリブの楽園」と称され、数年後には世界各国からの観光客で賑わい、経済的にも堅調な発展を遂げているであろうキューバにぜひ再訪したいと思う。その頃には直行便が就航していることを願って……。
〈でもビール党の私にとっては、やっぱりカナダでナイアガラを見ながらスリーマン…サッポロビールが買収した子会社…の美味しいビールも捨てがたい……?〉

視察所感

◆大阪ガス(株) 小西池 透

キューバとカナダ、社会主義国と資本主義国との差を実感しました。インフラ整備の状況やモノづくりの技術など、格差は歴然。でも、ゆったりとした風土や親しみやすい人間性には共通点も感じられ、旅先での一服の清涼剤となりました。

◆京都リサーチパーク(株) 小西雅之

初めて訪問したキューバは、社会インフラ（道路・交通・通信・エネルギー等）が未整備で、これらの構築により今後発展の余地は大いにあるという印象です。社会主義国家という難しい面はあるものの、市場開放の進展に伴い海外企業の市場参入が拡大する可能性もあると感じました。

◆株島津製作所 世古口 朋亘

今回、初めてキューバを訪問し、社会主義を堅持しつつも経済的苦境を乗り越え繁栄する為に資本主義の取込みを図ろうとしている姿を実感することができました。首都ハバナの街や人の活力も感じることができました。大変貴重な機会を有難うございました。今後のビジネス拡大につなげられる様、努力いたします。

◆株積進 田中安隆

社会主義国は「暗い」「不愛想」「監視下」というイメージでしたが、キューバという国はそれを全て覆しました。逆に、「お店が少ない（配給制）」「インターネットがNG（情報統制）」という、本来の（？）社会主義を実感できたことは貴重な経験でした。そんな国に滞在し、多くのカルチャーショックを受けましたが、「世界中どこに行っても同じだ」と感じた出来事があります。それが何かはここでは書けませんが…ご興味ある方は当方まで！

◆太陽精機(株) 堀 英陽

「急速に近代化が進むとはまだ考えられない」という在キューバ渡邊日本大使の言葉が印象的で、すぐさまビジネスに結び付けることは難しいという印象でした。しかし私たちの常識からかけ離れた経済構造を持つキューバに触れることで、いかなる国と接する際にも、広い視野をもって、我々日本企業としての立ち回り方を考えなければならないと、強く感じることができました。

◆株竹中工務店 長谷部 眞

アジアに向かいがちな視野を改めて全世界に見開かせてくれる契機となった視察であった。キューバは社会主義国で、産業は国営企業によるものでインフラも未整備。一方医療・観光が主要産業で識字率ほぼ100%の労働力を持つ。我が国と友好関係が深まることでの経済関係発展を大いに期待したい。また街中で流れるラテン音楽、世界遺産のハバナ旧市街と要塞群、世界三大瀑布のナイアガラの滝の素晴らしい体験。そして企業訪問の際、依田会長が通訳なしで立派なスピーチをされたのに脱帽しました。

◆株日進製作所 前田 昌則

良いメンバーに恵まれ、とても意義深いツアーでした。キューバ、50年代のアメ車凄い、しかも現役を維持。アメ車が世界に霸を唱えていたパワーを垣間見た感じ。中米にあるも自由に散歩できる治安の良さと人懐こさ、今後の繁栄に繋がりますよう。

良いFact Findingでした。

カナダ、SPPCA様多くの示唆を受けました。

◆日本メカテクノ(株) 丸山明彦

今回の参加は、物づくり集団の一員としての産業視察をと言うより、初めて訪れる国への興味で有り、見聞を広めたい気持ちが強かった。特に米国との国交再開を迎えたものの、経済制裁が解かれないと状況での、一般市民の生活に直接触れたかったが、住居街に立ち寄れず残念だったが、貧しいながらも明るくエネルギーッシュな国民性を感じ、将来発展移行の印象を持った。

《団員名簿》

団長 依田 誠 (公社) 京都工業会 会長/
(株)ジエス・ユアサコーポレーション 会長
副団長 片岡 宏二 (公社) 京都工業会 副会長/ (株)片岡製作所 社長
副団長 山岡 祥二 (公社) 京都工業会 副会長/ (株)山岡製作所 会長
山岡 佳代 山岡祥二氏 令夫人
小西池 徹 (公社) 京都工業会 常任理事/
大阪ガス(株) 理事 京滋地区総支配人
小西 雅之 京都リサーチパーク(株) 会長
世古口朋亘 (株)島津製作所 海外事業開発部 医用ユニット副グループ長

田中 安隆 (株)積進 専務取締役
堀 英陽 太陽精機(株) 市場開発室
堀 富美代 太陽精機(株) 社長令夫人
長谷部 真 (株)竹中工務店 役員補佐
前田 昌則 (株)日進製作所 社長
丸山 明彦 日本メカテクノ(株) 会長
有馬 透 (公社) 京都工業会 専務理事
町田 徳男 (公社) 京都工業会 理事・事務局長

視察日程

	日 次	地 名	時 刻	交通機関	日 程
1	10／16 (日)	伊丹空港発 羽田空港着 羽田空港発 トロント着 トロント発 ハバナ着	14:00 15:10 17:40 16:45 18:55 22:20	NH028 AC006 AC1752	空路、羽田・トロント経由ハバナへ 乗継 乗継 着後、ホテルへ 【ハバナ泊・TRIP HABANA LIBRE】
2	10／17 (月)	ハバナ	10:00 11:00 14:00 16:00 19:00	専用車	・在キューバ日本大使館でのブリーフィング ・グーグル・テクノロジーセンター視察 ・マリエル開発特区視察 ・ラム酒博物館視察 ・商社駐在員等との夕食懇談会 【ハバナ泊・TRIP HABANA LIBRE】
3	10／18 (火)	ハバナ	終 日	専用車	・葉巻工場「TABACUBA」視察 ・ハバナ市内視察 【ハバナ泊・TRIP HABANA LIBRE】
4	10／19 (水)	ハバナ発 トロント着 ナイアガラ・ フォールズ着	08:00 11:25 13:00 14:30 17:30 20:00	AC1753 専用車	空路、トロントへ ・SPP Canada Aircraft, Inc. (住友精密工業(株)子会社) 工場視察 ・スリーマン社 (サッポロビール(株)系列会社) 工場視察 ・ジェットロ・トロントセンターによるブリーフィング ・ナイアガライルミネーションクルーズ 【ナイアガラフォールズ泊・SHERATON ON THE FALLS】
5	10／20 (木)	ナイアガラ・ フォールズ発 トロント着 トロント発	08:00頃 11:30 13:35	専用車 AC005	トロント空港へ (途中、トロント市内車窓視察) トロント空港到着 空路、帰国の途へ 【機中泊】
6	10／21 (金)	羽田空港着 羽田空港発 伊丹空港着	15:35 17:00 18:05	NH035	乗継 伊丹空港到着後、解散

* AC : エア・カナダ、NH : 全日空

2016 キューバ・カナダ産業視察団 報告

10／
17～21

■10月17日（月）

●在キューバ日本大使館 訪問

ご対応：渡邊 優・特命全権大使、山倉良輔・参事官
依田団長から挨拶の後、渡邊大使からキューバの社会・
経済状況等について、次の通り説明頂いた。

- ・面積：約11万km²（本州の約半分）
- ・人口：約1,124万人（東京都とほぼ同じ。15年）
- ・名目GDP：約835億ドル（15年国家統計局）
- ・一人あたりGDP：7,431ドル（15年）
- ・首都：ハバナ 言語：スペイン語
- ・元首：ラウル・カストロ国家評議会議長
(フィデル・カストロ前国家評議会議長実弟)

1959年のキューバ革命以降、共産党が国家の最高指導勢力で、カストロ政権が統治する社会主義国家である。ユネスコ文化遺産7件、自然遺産2件と美しいビーチなどの観光資源に恵まれている等の説明があった。

また、他の開発途上国に医師や教師を派遣するなどの援助を行うとともに、エリートである共産党員は、非常に優秀で、国際会議等では開発途上国リーダーとして雄弁に発言する。2011年の共産党大会で新たな経済方針が打ち出され、国内経済の活性化に向けて、喫茶・レストラン、タクシーなど自営業者を増や



駐キューバ日本大使館にて

し、外資導入を促進していること、などの説明があった。

併せて、アメリカとの関係改善や今年9月の安倍総理の訪問などにより、今後わが国との関係は深まっていく、との説明もあった。

質疑応答でも、丁寧に回答頂き、現在のキューバを理解する上で有意義な訪問となった。

●グーグル・テクノロジーセンター 視察

ご対応：同センター職員

グーグルが、キューバでのネットアクセスを拡大させるため、ノート型パソコンを20台寄贈し、今年3月21日にキューバの著名な芸術家アレクシス・レイバ・マチャド（通称Kcho）のアートスタジオ内に開所。無料でWi-Fiを利用できることから、地元住民の利用が多く、キューバではインターネットがつながる場所が少ないため、人気スポットとなっている。



グーグル・テクノロジーセンター

●マリエル開発特区 視察

ご対応：Mr. Oscar Perez-Oliva Fraga

(DIRECTOR OF BUSINESS ASSESSMENT)

所在地：ハバナ市内から西に約45kmのマリエル港に隣接した地域

2003年11月から開発が進められているマリエル開発特区の中心に建てられたビジネスセンターで、進出条件や開発の進捗状況等についての話を伺った。

現在の開発面積は、465km²であり、広大な敷地は工業地区、物流地区、港湾地区など11地区に分けられており、外資を導入して高付加価値産業の振興を図る計画である。マリエル港は深く、コンテナターミナルとして良好な港であり、ハバナから高速道路、鉄道もあり、インフラは充実している。わが国企業へも積極的な投資を呼びかけており、現在、キューバ国内資本4社、外国資本9社、ジョイントベンチャー4社、IEA（国際エネルギー機関）1社の18社が進出を決めている。土地は国有で利用する権利を得て、自社で社屋は建設する。税制の優遇措置も充実していることなどの説明を頂き、その後バス車窓から開発中の地区を視察した。



マリエル開発特区ビジネスセンターにて

●ラム酒博物館視察

所在地：歴史地区であるハバナビエハ（旧市街地）

サトウキビから造られるラムの製造工程や歴史について通訳のキキ氏から説明を受けながら視察。サトウキビを絞る道具や当時の工場、街並みを再現したジオラマ等を観た後、バーの雰囲気のショップでラム酒「ハバナクラブ」などを購入した。

●商社役員との夕食懇談会

・ゲスト：双日（株）ハバナオフィス フランシスコ・ミヤサカ副代表（キューバ日系人連絡会会長）
（株）クレオ・トレード 小林 豊 社長

・会場：レストラン「VISTA MAR PALADAR」

海岸際の堤防に接して建てられた自営レストランにおいて、日系二世のミヤサカ氏と東京に本社を置くキューバビジネスに特化された専門商社の小林社長に同席頂き、団員との夕食懇談会を開催した。打ち寄せる波音と飛沫が立ち上る中、キューバ料理を頂きながら現地事情等について話を伺った。社員はキューバ政府からの派遣で、選べないため経営は難しいこと等の話があった。

■10月18日（火）

●葉巻工場「TABACUBA」視察

所在地：ハバナ市内

工場の入り口でキューバでのガイド・カルロス氏から葉巻製造工程の説明を受け、その後、作業場を視察。4・5人が横一列に作業机を並べ、10数列に連なり、手際よく巻く者や吸い口部分を蜂蜜入りの糊できれいに仕上げていく者、検査する者など、20代から60歳位までのしっかりとした体格の男女が、葉巻やたばこを吸いながら高級葉巻「LA CORONA」を手作業で製造していた。



ハバナ市内観光

●ハバナ市内観光視察

1950・60年代の華やかなアメリカ車が行きかう道を通り、革命広場や支倉常長の像、モロ要塞、ヘミングウェイ博物館等とともに旧市街のキャデラルやホテルなどスペイン風

建築物が立ち並ぶ街並みを通訳のキキ氏の案内で視察。夕食は「HABANA CAFE」でラテン音楽とダンスのショーを楽しみながら会食した。

■10月19日（水）

感謝：カナダにおける工場視察は、ジェトロ・トロントセンター・中村和夫所長のご尽力により実現し、視察にもご同行頂きました。

●SPPCanada Aircraft, Inc.（住友精密工業株子会社）視察

ご対応：Mr. Eli Brigler社長兼CEO、Mr. Marc Ely副社長
所在地：オンタリオ州ミッソーガ市（空港からバスで約15分）

最初に技術担当の副社長・Marc Ely氏より、企業概要の説明を受け、工場内を視察した。

同社は、兵庫県尼崎市に本社を置く住友精密工業（株）の100%出資現地法人として2012年に設立され、翌年には本社兼工場の本施設を開業。ボンバルディアCRJやホンダジェット、ガルフストリーム社等の中小型飛行機の降着装置を製造。工場内では、部品はセルに入れてセットされ、プラモデルを組立てるように、オペレーションシートを見ながら、広々としたスペースで、機種毎のコーナーで、静かに組み立てられていた。



SPP Canada Aircraft, Inc.にて

●スリーマン社（サッポロビール（株）系列会社）

ご対応：花澤靖弘 社長兼CEO

所在地：オンタリオ州グエルフ市

花澤社長から、スリーマン社の創業からカナダ第3位のビールメーカーに成長するまでの歴史とともに、サッポロビールが北米におけるシェアを拡大するため2002年からOEM生産を依頼、その後2006年に買収し、サッポロビールがアメリカにおける日本製ビールシェア第1位の地位を長年守っていること等を説明頂き、その後、ガラス越しに工場内の2階からびん詰め工程を視察。視察後は、ご用意いただいた料理とともにスリーマンとサッポロの数種の出来立ての美味しいビールを満喫させて頂いた。



スリーマン社にて

●ナイアガライルミネーション

クルーズ観光

ホテル到着後、ディナーを「AG Inspired Cuisine」で頂き、その後、虹色にライトアップされたナイアガラの滝のクルージングを楽しんだ。



ナイアガライルミネーションクルーズ

■10月20日（木）

●バスの車窓からのトロント

市内観察

早朝、ナイアガラを出発し、女性運転手イリットさんが運転するバスの車窓からトロント市内を視察した後、帰路についた。



車窓からのトロント市内

■会員企業トップにインタビュー〈6〉

必要とされる人に 必要とされるものを 必要なときに……

株洛北義肢 プロフィール
 義肢装具の製造・販売・開発。
 資本金：2,000万円 従業員：106名
 京都市北区大北山原谷乾町22-16
 Tel.075-462-0800

(株)洛北義肢

社長 坂本明信氏

—会社創業以来の歩み

- 1973年 洛北義肢製作所 創立
- 2001年 ISO9001認証取得
- 2005年 原谷第一工場竣工
- 2006年 京都市中小企業支援センターよりオスカー企業として認定
- 2007年 京都府より「京都府中小企業優良企業（ものづくり部門）」として認定
- 2008年 中小企業庁より「明日の日本を支える元気なもののづくり企業300社」に選定
- 2012年 (株)リハビテック設立

—創業時の基本的考え方についてお聴きします。

創業者（実父）の「必要とされる人に 必要とされるものを 必要なときに」というシンプルで当たり前のこととを守り続ける限り、当社の評価や業績は揺るがないと考えています。この経営哲学は創業以来43年を経ても今尚不变です。

自身も足に障害があったことから、自分に合った装具を作りたいとの思いで創業し、以来義肢・装具を手掛けてきました。どんな障害であっても、日常生活を普通に過ごしたいというユーザーの思いに、あくまでも黒子として応えていくことが仕事の基本でした。

以来実体験を伴って妥協を排した厳しい姿勢で開発に取り組み、他社の作れない製品を世に出し、次第に認めいただけたようになってきました。

義手や義足などの義肢、股関節用など各種装具、コレセットなどの開発販売、車いすや歩行器、リハビリ機器などの介護用販売を手掛ける一方、障害補助や早期離床、リハビリなど医用だけでなく、高齢化社会を迎えて安心、安全、快適な環境実現をめざした事業へと展開しています。更には装具は治療のためだけではなく、予防に用いられるケースも増え、世の変化を的確にとらえ、求められるものを世に送り出すべく努力をしています。

—人材育成に注力されていますね。

自社の製品は全て医師の処方をもとに患者に合わせて手作りをします。従って同僚を育成することが、良い製品作りにつながると確信しています。もとより患者様にご理解いただけるような説明能力も求められます。

現在20歳から40歳台前半の同僚が多い状況です。毎年10名以上採用しており、これら若手社員の教育が急務となっていることから、まず同僚に求めるのは、日々の業



▲同社原谷第一工場全景

務を通じて行う自己研鑽です。これを土台として半年間「プラザーシスター制度」の実践を行います。これは新入社員に先輩社員が付いて、業務・礼儀作法などのチェックやアドバイスなどを行うものです。教える方はその内容を熟知する必要があります、自ずとスキルアップします。教わる方もより実践的な技能を吸収する機会となり社員のスキルアップ、ボトムアップになるケースも多々見られます。更にはCPD（コンティニュアス プロフェッショナル デvelopment）制度に取り組み、継続することで、個々の社員のキャリア形成を中長期的な視点で支援していくことが可能となりました。

企業発展の究極の決め手は、個々人の能力、技術力の向上に尽きると思います。これらの人材教育によって、若手社員が一日一日、一年一年と育っていく過程を目にするのは経営トップとしてこの上ない喜びです。

—これから経営のポイントをお聞かせ下さい。

義肢装具の市場は高齢化社会を迎えて拡大傾向にあります。当然ながら各方面からニーズは高まりを見せ、これに対応することが求められています。先年、京都府下のリハビリテーションの充実の動きに合わせて、リハビリテーション部を設置し、産学連携に乗り出しました。介助者の直観を重視し、そして負担を減らしていくことにも取り組んでいます。

そして同業者600社（国内）の中にあって他社との違い、自社の強みを存分に生かした経営のあり方として、

1. 高品質の追求
2. 短納期の実現
3. 人材教育の更なる充実 の3点を掲げ、
 これからも先代の路線を踏襲し、先代の志を今の時代とマッチさせて社業発展に努めたいと思っています。

白鷺クラブ 活動レポート

8月18日(木)

日新電機(株) 小畠社長を迎えて

8月18日夜、日新電機(株)・小畠英明社長(本会副会長)を南禅寺・八千代に迎え、第471回例会を開催、33名の会員多数が出席した。小畠社長は「日新電機と私の経営」をテーマに、同社の創立の経緯、現在の事業概要、そして同社の経営を率いるにあたっての基本方針として



1. 人を知る
 - ・経営の要諦は「3D」と教育
2. 歴史を知り、組織のDNAを知る
 - ・DNAを正しく認識する
 - ・DNAにジャストミートした経営をする
3. 事業計画で方向性を示す
 - ・中期計画 (VISION2015の策定)

の3点をあげ、様々な具体例を交え明快に述べられた。とりわけ、「組織のDNA」の重要性を強調され、出席者一同深い感銘を受け、有意義な例会を終えた。

10月13日(木)・14日(金)

長野県諏訪地域へ視察旅行



▲オリンパス(株)長野事業場にて（前列左より6人が林繁雄本社専務）

白鷺クラブとして初めて、精密機械や情報関連産業の有数の集積地である長野県諏訪地域を秋色濃い中、訪問した。同地区の誇る世界的企業や優良中堅企業訪問等を通じて、同地区産業への理解を深めた。

《訪問先》

- 1日目 オリンパス(株)長野事業場（上伊那郡辰野町）
諏訪大社本宮参拝（諏訪市）
- 2日目 宮坂醸造(株)（諏訪市）
諏訪圏工業メッセ（諏訪市）
(株)ミスズ工業（諏訪市）

第593回 京都工業クラブ

8 / 19

「イギリスのEU離脱の影響と今後の展開」

立命館大学 政策科学部
教授 上久保 誠人氏

英国が国民投票によりEUからの離脱を決め、メイ新首相のもと同国の政治経済情勢が今後どのように展開するのか関心が高まる中、英国の政治経済情勢に詳しい立命館大学・上久保先生を迎えるお話を伺った。



講演では、今日に至るまでの一連の英政権の確執や、単純にはいかないEU離脱、英国の「国力」とそれを考える上で重要な超巨大経済圏「英連邦」等の紹介がなされ、「短期的に英國に損失があるとしても、おそらく中長期的にみれば不利益ではなく、歴史的に積み上げてきた英國の底力が発揮されることになるだろう。」との見通しを述べられた。

第594回 京都工業クラブ

9 / 16

「ソフトバンク・ペッパーが拓く未来 ～その活用と展開について～」

ソフトバンク(株) SE本部西日本SE統括部
セールスエンジニアリング部第1課
ペッパーマスター 桐島 義教氏

昨年6月の発売以来、人気を博しているソフトバンク社の人型ロボット“ペッパー”がビジネス用として進化を続けており、その利用方法に関心が高まっていることから、ソフトバンク社のペッパーマスター・桐島氏を迎えるお話を伺った。



講演では、ビジネスに特化したペッパー (Pepper for Biz) の企業導入事例、最新のアプリや付加サービス、そしてAIやIoTとの連携による革新的な課題解決の可能性等が紹介された。

当日は“ペッパー”も持ち込まれ、ペッパー自身によるペッパーの概要紹介や、相手の顔を認識して話を聴き、会話をする実演デモも行われた。



▲ペッパーによるペッパー概要紹介

業務革新研究会 活動紹介

本会の数多くの人材育成事業の中でも、「基幹事業の1つである業務革新研究会（8研究会）」では、5月例会からアドバイザーを迎え、講義や演習及び工場見学を通した活動が本格化した。以下、主な活動概要を紹介する。

【生産管理（TOC）研究会】（6月10日）

「TOC（制約条件理論）に基づく全体最適のあり方」を研究している生産管理（TOC）研究会では、去る6月例会において、高橋浩史アドバイザー（日新電機（株）情報システム部長）から、問題の中に潜む因果関係の構造を明らかにし、中核問題を見つける手法である現状問題構造ツリーの作成と中核問題について演習を通して講義を受けた。

◇現状問題構造ツリーの作成

問題の本質がどこにあるのかを発見する為に、まず現状の問題点を列挙する。これらを「好ましくない結果」と呼ぶ。好ましくない結果を20個程度の問題点として出し、そうした単純に表現できる不具合を起点にし、遡的に真因にさかのぼっていくという方法。



研究会メンバーは、自社での困り事を持ちより、演習する事でTOCの考え方について理解を深めた。

【購買調達革新研究会】（7月19日）

「サプライヤー評価と育成、各種コストダウン手法、海外調達のあり方」を研究している購買調達革新研究会では、去る7月例会において、北村繁一アドバイザー（元オムロンロジスティッククリエイツ（株）取締役）から、固有技術、管理技術の水準から見て実現可能な水準を設定する購入コスト基準（PCS）について演習を通して講義を受けた。

◇PCS（Purchasing Cost Standard）の構築

コストテーブルを「世界NO.1コスト基準」と位置付け加工先の指導・育成を目指す



◇PCS標準時間の構築



研究会メンバーは、自社でのコスト基準との対比から、PCSの構築について理解を深めた。

今、求められる購買リスクマネジメント

～購買管理特別講演会を開催～

9 / 8

今、経営活動のグローバル化に伴い、購買資材部門の調達業務やサプライヤー管理業務の重要性がますます高まる中、本会・購買資材問題懇話会では、去る9月例会にて、調達業務研究家として高い評価を得ておられる坂口孝則氏（未来調達研究所（株）取締役）をゲストに招き、懇話会以外の会員企業にも広く参加を呼びかけ、45名の参加者を得て、購買管理特別講演会を開催した。

坂口氏は、5年前の東北大震災で産業界が骨身にしみ、取り組んだマルチソース（複数購買）化について、現状は原材料と汎用品しか取り組めていないこと、また、サプライヤー管理についても、源流管理はかなり進んだものの、重要部品のみにとどまり、海外関連はとても対応できない現状を鑑み、これからの調達リスクマネジメントは、このような事前対策の限界をベースに、リスクマネジメントからクライスマネジメントへ、基本的な考え方を変える必要があると解説。

〈クライスマネジメント〉

損害局所化	回復	学習
・損害状況の把握	・通常状態への回復	・類似災害がおきた時のため
・損害の局所化	・復旧から復興へ導く	に 対策を講ず。

質問も多く出て、充実した講演会となった。

電子システム研究科・メカトロニクス研究科

一泊研修を開催

8 / 26・27

次代の技術開発を担う人材育成事業として、本会の各種研修会の中でも中核的な事業の1つともなっている「電子システム研究科、メカトロニクス研究科」では、毎年恒例の一泊研修を実施している。今年度も去る8月26日（金）～27日（土）の2日間で開催した。初日は、2社の企業訪問（エスペック（株）福知山工場、オムロン（株）綾部事業所）の視察をとおし、訪問企業のコア技術や製品展開及び現場改善事例に学ぶと共に、2日目は、同志社大学 大学院 ビジネススクール 教授 藤原浩一氏より、会場であるポリテク舞鶴カレッジにて、「技術経営（MOT）」をテーマに、企業の市場競争力を分析するSWOT分析等の講義や、各手法で自社の技術を分析したり、実際の企業の戦略事例をテーマにグループ討議を行い、将来、自社の技術部門を担っていくための戦略的な思考等を学んだ。

この2日間を通して、知識の習得だけではなく、研修生同志の交流も深まり、充実した一泊研修となった。

予告ご案内

公益社団法人 京都工業会 創立60周年記念祝賀会

本会が昭和32年12月17日、京都府機械金属工業連合会として発足して、来年（平成29年）で60周年を迎えるにあたり、記念祝賀会を下記の通り開催いたします。

開催日 平成29年5月25日(木)

開催場所 リーガロイヤルホテル京都

【第49回通常総会】 (14:00 ~ 15:50)

【創立60周年記念祝賀会】 (16:00 ~ 18:30)

■記念式典 (16:00 ~ 16:50)

○開会の辞

○会長式辞 会長 依田 誠

○来賓祝辞

○来賓紹介

○感謝状贈呈並びに表彰

①功労役員への感謝状贈呈

②永年勤続職員表彰

○閉会の辞

■記念祝宴 (17:00 ~ 18:30)

(※60周年記念事業として、この他にも記念講演会や記念誌の発行を予定しております。)

予告ご案内

一京都発。新産業・新技術の創出をめざして— 京都産学公連携フォーラム2017

「オール京都の産学公連携活動」の推進をめざし、「産学公連携フォーラム2017」を下記の通り開催します。

《京都ビジネス交流フェア2017と同時開催》

日 時：平成29年3月1日(水)・2日(木) 10:00~17:00

場 所：京都パルスプラザ(京都市伏見区竹田鳥羽殿町5)

【開催要項】

(1) 3月1日(水)

*開会式挨拶：依田 誠 京都工業会会长

*基調講演

「IoTの動向と製造業ビジネスモデルへのインパクト」

(株野村総合研究所 桑津浩太郎氏)

「富士通が考える次世代ものづくりICTについて」

～日本版Industry4.0の実現を目指して～

富士通(株) 熊谷 博之氏

*シーズ発表(4テーマ)

(2) 3月2日(木)

*シーズ発表(8テーマ)

[※シーズ発表は2日間で大学より8件、

産業側より4件の12テーマを発表予定。]

主 催：京都工芸繊維大学、京都産業大学、京都大学、京都府立医科大学、
京都府立大学、同志社大学、立命館大学、龍谷大学、京都府、
京都市、京都商工会議所、京都産学公連携機構、(公社)京都工業会

共 催：(公財)京都産業21

予告ご案内

2017年 新春交歓会

と き：平成29年1月26日(木)

18:00 ~ 20:00

と こ ろ：京都ブライトンホテル

参加対象：本会会員企業で、

代表者を含め1社3名程度

内 容：☆会長ご挨拶

☆新入会員ご紹介

☆福引大会

☆ハッピーマン2017年選び…等

新春のひと時を、会員皆様多数のご参加を得て、
楽しく和やかにお過ごしいただければ幸いです。



いつでも、あなたの
ビジネスのそばに。

京都中央信用金庫

本店／京都市下京区四条通烏丸西入ル

TEL 075-223-2525

FAX 0120-201-580(フリーダイヤル)

URL www.chushin.co.jp

叙勲の栄

本年度の秋の叙勲・褒章が発令され、本会関係では次の3氏がその栄に輝かれました。
会員の皆様とともに、心よりお祝い申し上げます。



旭日小綬章御受章
渡邊 裕文氏
 (株三煌産業 会長)



旭日双光章御受章
佐野 修弘氏
 (株キヨーテック 会長)

瑞宝單光章御受章
増田 義次氏 (株山岡製作所 元工場長)

訃報



大倉 敬一氏
 (月桂冠株) 取締役相談役
 昭和61年5月～平成6年5月まで本会理事
 平成6年5月～12年5月まで本会常任理事
 8月15日、ご逝去されました。
 (享年89歳)

栗田 好雄氏 (株栗田製作所 社長)
 (10月2日、ご逝去されました。 (享年95歳))

ここに、会員各位とともに謹んで哀悼の意を表します。

新入会員ご紹介

(9月15日、第307回理事会で承認されました。)

正会員

(株) 力ネキ

社長 辻 清
 〒613-0022 京都府久世郡久御山町市田祇園田17-2
 TEL.0774-43-5425 FAX.0774-44-1927
 業種：鋼材全般の販売及び一次加工



堀川化成(株)

社長 藤本 基
 〒538-0052 大阪市鶴見区横堤4-9-34
 TEL.06-6911-6131 FAX.06-6912-2193
 業種：有機溶剤リサイクル事業



(株) やまとカーボン社

会長 滝本 正明
 〒601-8162 京都市南区上鳥羽塔ノ森柴東町4-9
 TEL.075-662-0391 FAX.075-662-0343
 業種：印刷物製造業

賛助会員

サッポロビール(株)近畿圏本部近畿統括支社 京滋支社
 支社長 飯田広行
 〒600-8007 京都市下京区四条通東洞院東入ル
 京都証券ビル4F
 TEL.075-231-7177 FAX.075-255-4467
 業種：ビール・発泡酒、その他の酒類の製造、販売、ワイン・洋酒の販売 他



ゆたかなコミュニティを求めて

コミュニティ・バンク 京都信用金庫は
 地域の皆様とともに歩んでまいります
 これからもよろしくお願ひいたします



<http://www.kyoto-shinkin.co.jp/>

京都工業会「女性の会」参加企業における 女性が輝く☆企業の取り組み 事例紹介②

(株)イシダ 技術統括部
技術規格管理課主任 朝比奈 雅子

株式会社イシダ
京都市左京区聖護院山王町44
社長：石田 隆英 創業：明治26年
資本金：9,963万円 従業員数：1,394名
計量包装機器等製造

■始まりは小さな灯から

2010年夏、大阪で開催された、女性のためのあるフォーラムに京都本社、滋賀事業所、大阪支店から、約10名の女性社員が参加しました。それまで業務の専門知識を向上させるセミナーは受講していましたが、女性の活躍をテーマにしたセミナーに参加した経験がなく、そこで各々が得た、「女性も公私ともに忙しくても活躍しているんだ。それを後押ししているたくさんの企業がある。その情報を社内に持ち帰り、小さな灯を絶やさないように、自分たちも何か取り組まなければ！」という思いが生まれました。当時、滋賀県の女性力活性化研究会に参加していたメンバーと共に、滋賀事業所で女性の活動グループを発足し、異業種交流会を開催して、先進事例を学んだり、京都商工会議所主催の「小学生への環境学習事業」に積極的に参画して、活動の輪を広げました。



環境学習事業の様子

「いつか、法規制により女性管理職を増やさなければならぬ時が来る。その時に女性社員が自ら力をつけて活躍していかなければ、急に慌てても手遅れになってしまう」そんな想いでした。翌年は京都本社の女性社員による業務改善グループとの情報共有会を開催したり、公募で異業種交流のメンバーを集め、より多くの女性社員が参加できるようにしました。さらに、2013年に発足した生産部女性社員のグループとも活動の輪を広げ、2015年プロジェクト準備のための「イシダ・ビジョナリー活動(美女活)」を始動、2016年からプロジェクト化の承認を得て、「イシダ・ビジョナリープロジェクト」が始動しました。プロジェクト化を前に、プロジェクトの担当役員と相談し、今後の活動の方向性を決めるためのアンケートを女性社員全員に行いました。このアンケートを取る前、「会社に貢献したいと思っている女性社員は少ないのではないか」と懸念する声もありました。しかしながら



イシダ・ビジョナリープロジェクト会議の様子

ら、この懸念は良い意味で裏切られ、アンケート結果から多くの女性社員は高い意識を持ち、会社の利益に貢献したいと思っていました。

■全社員が働きがいのある職場を目指して

2012年に導入した新しい人事制度では、総合職、一般職の壁が取り払われ、転居を伴う異動のない地域職と勤務地に限定がない全国職の区分に変わりました。そのことにより、地域職でも管理職を目指せるようになり、活躍の可能性が広がりました。しかしこれだけではなく、女性は男性みたいに家庭を犠牲にしてまで働けないでしょ？」というような古い考え方や風土があります。これらを払拭し、全社員にとって働きがいのある職場にするため、イシダ・ビジョナリープロジェクトは総務人事部とも協働しています。女性活躍推進法施行をきっかけとして、これまで長い間実施されなかった女性社員向けの社内研修や、管理職者向けの意識改革研修なども計画され、その内容には女性社員の意見が取り入れられています。

■女性活躍推進法の行動計画の推進

2016年4月の女性活躍推進法施行を受けて、上述の女性社員アンケートからの意見も多く取り入れた行動計画を策定しました。管理監督職に対する女性社員の割合を上げることだけに特化せず、女性が活躍しやすい風土の醸成、女性社員の不安や悩みの解消、将来像のイメージを持つことができる風土改革などに取り組むため、今期メンター制度を導入します。まずは、主任レベル以上の女性社員に対して管理職がメンターとなり、意識向上を目指すとともに、マネジメント、経営知識、ロジカルシンキングなど知識習得に取り組みます。来期以降は、順次その輪を広げ

ていく予定です。女性社員のみならず全社員が働きがいを持ち、いきいきと活躍できる職場を目指し、活動を継続していきます。



京都工業会ニュース No.388

2016年11月24日発行
発行 公益社団法人 京都工業会

〒615-0801 京都市右京区西京極豆田町2
TEL.075(313)0751 FAX.075(313)0755
URL : <http://www.kyokogyo.or.jp>
E-mail : info@kyokogyo.or.jp